

口の健康 唾液でチェック

弘大試行新たな歯科口腔健診

弘前市長、市職員ら協力



唾液検査や口腔^{くわく}写真^{しやうしん}を活用して簡単に口の健康をチェックし、意識改革を促す新たな歯科口腔健診の試みが2日、弘前市の弘前大学健康未来イノベーションセンターで始まった。市職員約80人を対象に行い、弘大などが半年後に効果を検証する。同日は桜田宏市長も受診した。(太田佳希)

弘大を拠点とする国の大型研究プロジェクト「弘前大学COI」は、健康診断の結果を即日受診者に示し、データを基に健康教育

口の中の健康状態が分かる唾液検査に臨む桜田市長(左から2人目)ら

を行う「啓発型健診」に取り組んでいる。運動機能や認知機能も調べる総合的な健診だが、今回は口腔保健に特化して実施。ライオン(東京都)が開発した唾液検査システムを使い、虫歯のリスクや歯茎の健康状態などをチェックする。

受診者は、口臭検査や唾液の採取、口の中の写真撮影に臨み、ブラッシングの実技指導を受けた。全体講話では、歯科衛生士が口腔状態と全身の健康の関連性を解説したほか、唾液検査の結果を踏まえ「酸性度が高い人は、食事はよくかんで唾液をたくさん出して」などとアドバイスした。

健診に参加した桜田市長は「自分の口の状態がすぐに分かり、意識啓発につながると実感した。歯の磨き方は今晚から改善する」と話した。

弘大COI研究推進機構の村下公一教授は「数値の改善だけでなく、目的は受診者の意識と行動を変え

ること。口の健康が短命県返上にもつながる」と述べた。